



東証マザーズ(TSE Mothers):6264

株式会社マルマエ 平成24年8月期 決算説明会

平成24年10月19日
東京国際フォーラム G505 会議室



進化する技術で未来を拓く

1.決算概要



P/L分析

P/L

	平成23年8月期		平成24年8月期		
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合(%)	対前年同期 増減率(%)
受注高	1,176	—	1,020	—	▲13.2
受注残高	196	—	126	—	▲35.8
売上高	1,266	100.0	1,103	100.0	▲12.9
売上原価	1,081	85.4	878	79.6	▲18.8
売上総利益	185	14.6	225	20.4	21.4
販売管理費	180	14.2	174	15.8	▲3.1
営業利益	5	0.4	50	4.6	902.6
経常利益又は 経常損失(▲)	▲49	▲3.9	21	1.9	—
特別損益(▲)	▲335	▲26.5	▲80	▲7.3	—
当期純損失(▲)	▲389	▲30.7	▲62	▲5.7	—
EPS(円)	▲21,262.96	—	▲3,603.42	—	—
EBITDA	248	—	203	—	▲18.1

Point

①受注状況

- FPD分野:456百万円
(対前年同期:37.6%減)
- 半導体分野:481百万円
(対前年同期:8.3%減)
- 太陽電池分野:4百万円
(対前年同期:86.4%減)
- その他分野:79百万円
(対前年同期:197.4%増)

②売上高(販売分野別は次頁参照)

- ・対前年同期12.9%の減少

③売上原価・売上総利益

- ・生産構造改革
- 固定費削減&生産性向上

④営業利益

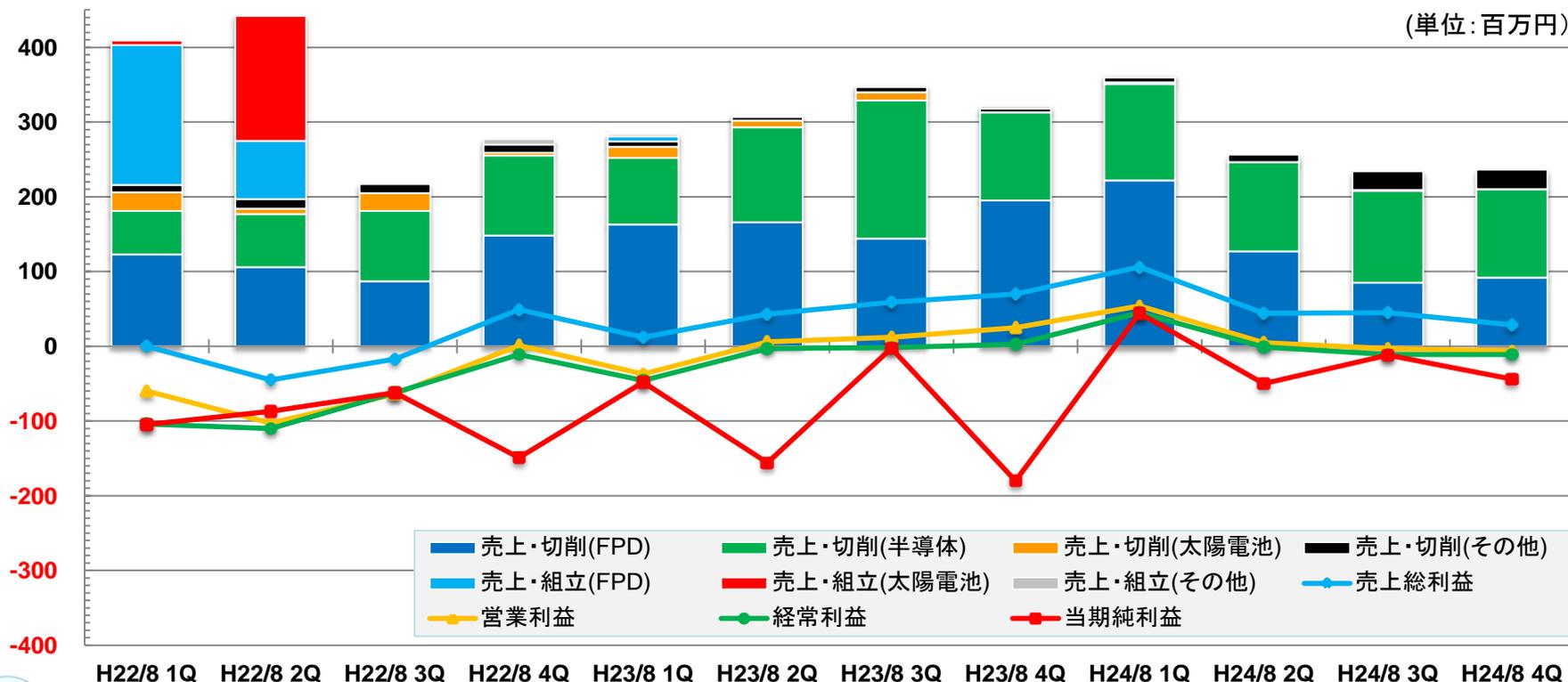
- ・販売管理費はほぼ横ばい

⑤営業外収益/費用

- ・支払利息:21百万円
- ・減価償却費:10百万円(熊本事業所分)
- ・為替差益:2百万円

1.決算概要

四半期業績の推移



Point

①売上高は、その他分野健闘も停滞

- FPD分野: 累計528百万円(対前年同期: 21.1%減)
 - ・業績を牽引した中小型装置市場が一時的に減速
- 半導体分野: 累計490百万円(対前年同期: 5.9%減)
 - ・市場環境が悪化も、新規拡大で売上高横ばい
- 太陽電池分野: 累計4百万円(対前年同期: 88.9%減)

- その他分野: 累計80百万円(対前年同期: 134.0%増)

②損益面では新規向け試作に生ずる費用を引当

- ・ 4Q単独では6百万円の営業損失
- ・ 生産構造改革の固定費削減効果は顕著
- ・ 熊本事業所売却等に関連する特別損失: 51百万円
- ・ 固定資産の減損損失に係る特別損失: 35百万円

1.決算概要

B/S分析

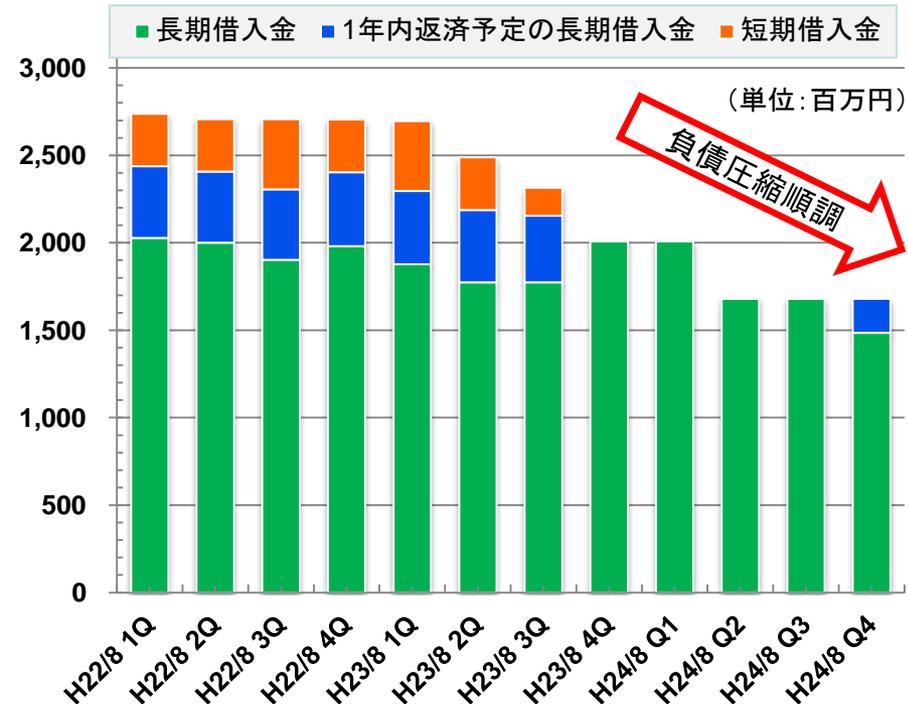
B/S

(単位:百万円)	平成23年8月期 会計年度末	平成24年8月期 会計年度末
流動資産	662	735
現金及び預金	144	384
受取手形・売掛金 電子記録債権	452	319
たな卸資産	46	20
固定資産	1,583	1,039
建物・土地	990	604
機械及び装置	416	305
流動負債	152	274
有利子負債(短期)※	6	194
固定負債	2,018	1,489
長期借入金	2,008	1,486
負債合計	2,170	1,764
純資産合計	74	11
総資産	2,245	1,775

※ 有利子負債(短期): 短期借入金+1年内返済予定の長期借入金

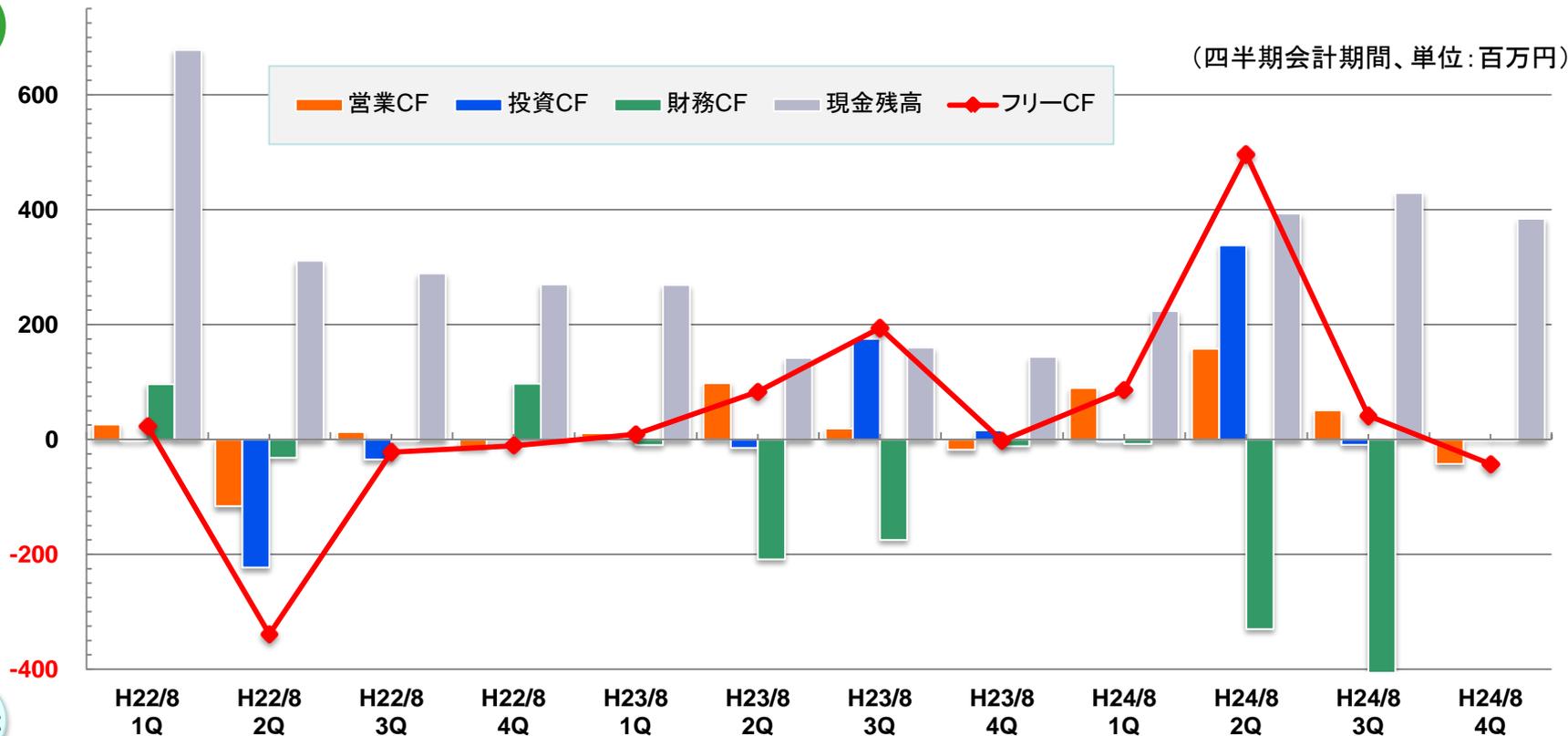
Point

- ① 資産: 1,775百万円(前期末比: 469百万円減少)
 - ・現金及び預金: 239百万円増加
 - ・受取手形及び売掛金等: 133百万円減少
 - ・固定資産: 543百万円減少 他
- ② 負債: 1,764百万円(前期末比: 406百万円減少)
 - ・長期借入金: 522百万円減少
- ③ 純資産: 11百万円(前期末比: 62百万円減少)
 - ・自己資本比率 0.7%



CF分析

CF



Point

① 営業活動によるCF(通期): +256百万円

- ・減価償却費による増加152百万円
- ・売上債権の減少による増加133百万円
- ・税引前当期純損失による減少59百万円
- ・減損損失による増加35百万円
- ・4Qは、手形顧客向け売上増加で一時的減少

② 投資活動によるCF(通期): +323百万円

- ・有形固定資産の売却による収入: 343百万円
- ・有形固定資産の取得による支出: 13百万円

③ 財務活動によるCF(通期): ▲340百万円

- ・長期借入金の返済による支出: 335百万円

1.決算概要

固定費推移及び特別損失の計上

Point

設備投資方針

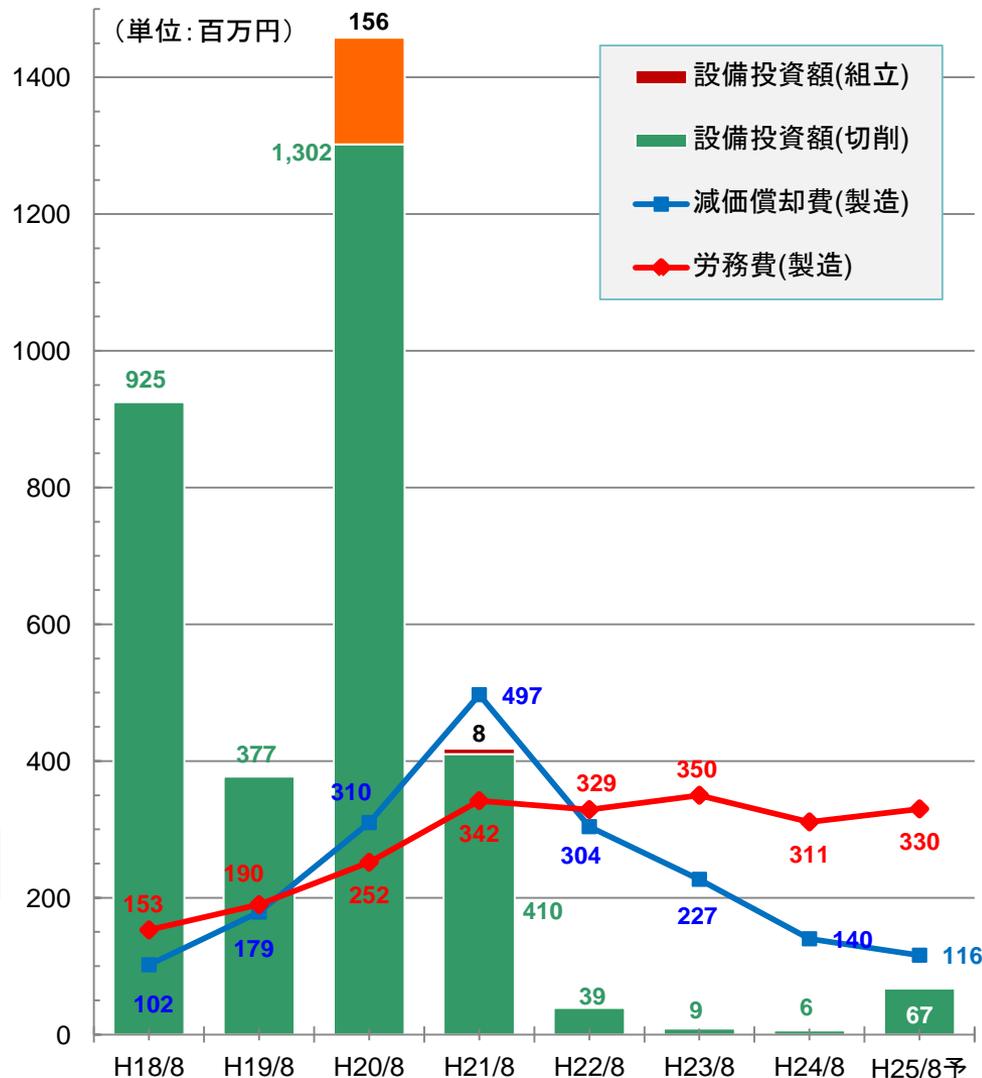
事業再生計画に沿って、債務の整理を優先することと、「原点回帰」方針は踏襲しつつも、半導体分野の拡大と老朽設備の更新に対応する設備投資再開を計画
(事業再生計画折り込み済み)
労務費の増加要因は、受注増加に対応した派遣社員の増加予定

Point

減損損失(特別損失)の計上

遊休資産である電子ビーム溶接機について精査し、保守的に検討した結果、当期期末において新たに35百万円の減損損失を特別損失に計上

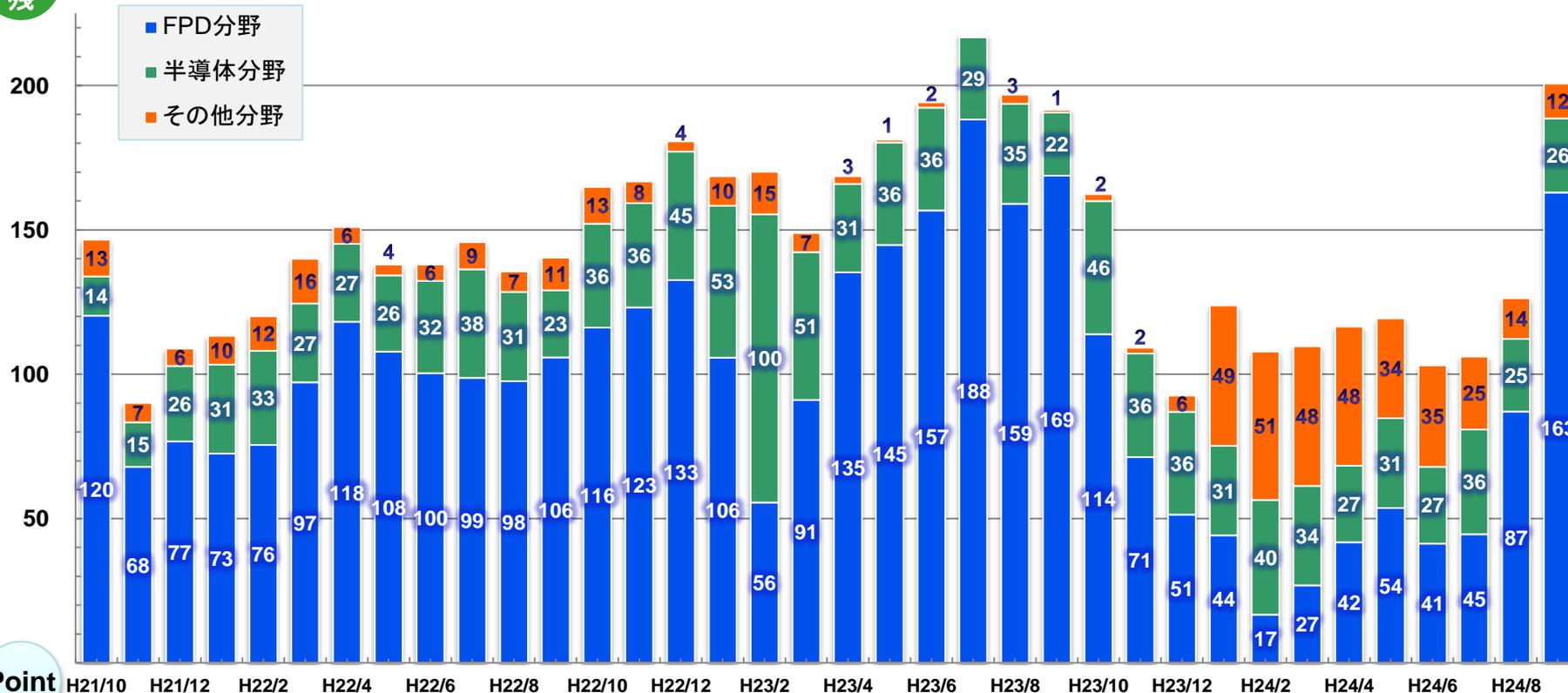
場所	用途	種類	減損損失額
鹿児島県	遊休資産	建設仮勘定 (EBW)	35,100
合計			35,100



月次受注残高の推移

受注残

(単位:百万円)



Point

- FPD分野は、スマートフォン等の携帯端末向け小型設備投資に関連した受注が拡大
- 半導体分野は、厳しい市場環境の中で、コストダウンに伴う引き合いや新規顧客の試作増加で横這
- その他分野は、FPD分野が好調な事から社内生産余力が少なく受注残は減少

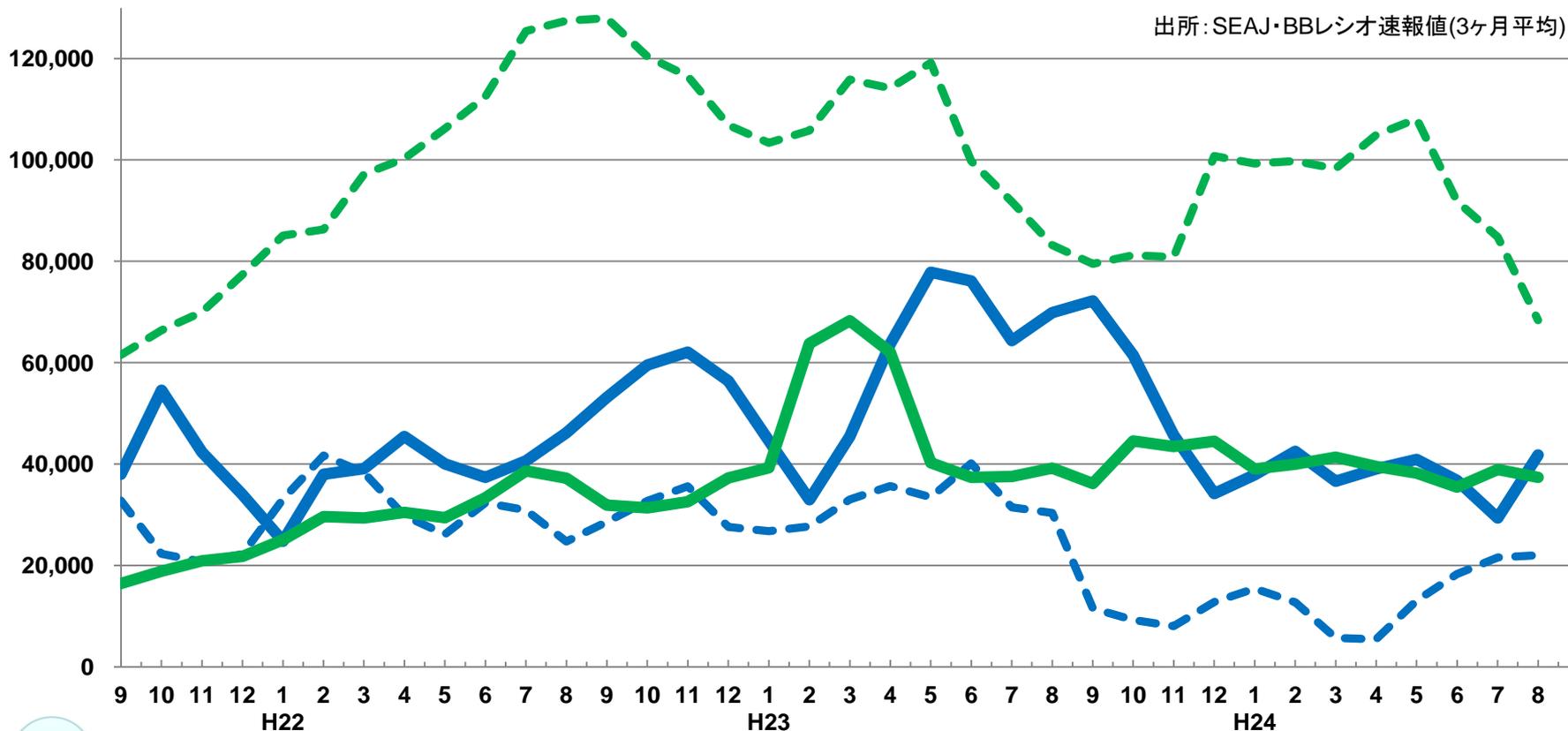
※当社の受注は、案件ごとに長短さまざまなリードタイム(LT)があり、LTの長い案件が多いと売上高に比べ受注残が多めで、LTが短い案件が多いと売上高に比べ受注残は低めに表れます。(主に半導体はLTが短く、FPDはLTが長めです)

市場とマルマエの受注動向比較(3ヶ月移動平均数値)

受注

--- FPD製造装置(日本製) 受注額(百万円) --- 半導体製造装置(日本製) 受注額(百万円)
— マルマエFPD分野(切削加工) 受注額(千円) — マルマエ半導体分野(切削加工) 受注額(千円)

出所: SEAJ・BBレシオ速報値(3ヶ月平均)



Point

- FPD分野は、国内向け中小型装置の需要拡大に伴う受注増加
- 半導体分野は、世界的景気減速を遠因とした韓国等の設備削減で市場後退も、消耗品と試作品で受注確保
- 太陽電池分野は重要度の低下からその他分野へ集約

販売分野別の環境と営業方針

FPD分野

- ◆ 上期は携帯端末向け小型装置進展し、下期は海外案件も計画
- ◆ コストダウン注力し、国内案件で受注品種拡大と、海外案件取込狙う
- ◆ 上期は生産力いっぱいの受注状況続く見込み

半導体分野

- ◆ 製造装置の市場環境は底抜けに近い厳しい環境
- ◆ 足元堅調な消耗品にも市場停滞の懸念
- ◆ 下期量産に向けて、試作品の受注拡大に注力

その他分野

- ◆ 原子力関連、鉄道車両関連、通信機器関連の新分野開拓
- ◆ FPD分野の活況で生産余力乏しく、目先新規案件取込停滞

3.平成25年8月期の業績予想

次期の見通し

業績
予想

(単位:百万円、1株当たり純利益は円)

2,200

1,700

1,200

700

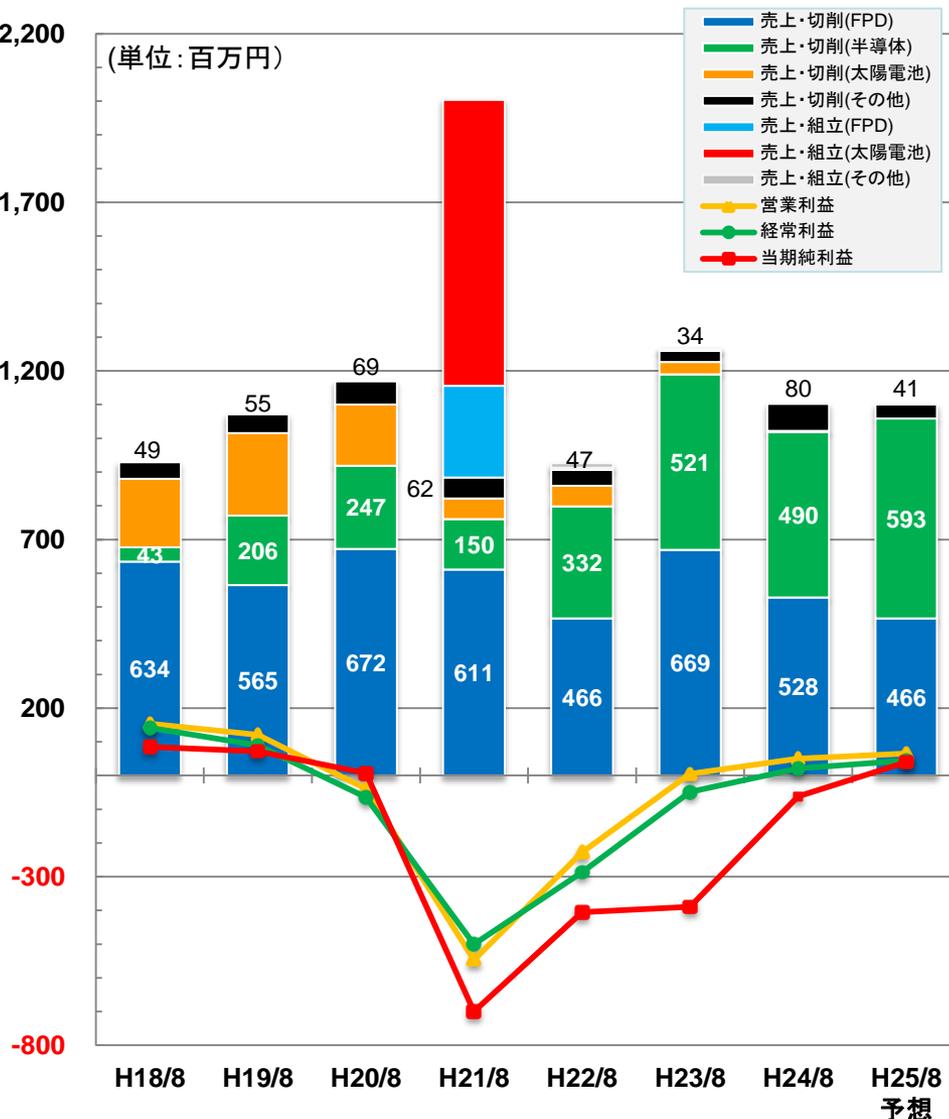
200

-300

-800

平成25年8月期 業績予想	売上高	営業 利益	経常 利益	純利益	1株当たり 純利益
第2四半期 累計期間	540	35	25	22	1,261.03
通期	1,100	65	45	40	2,292.79

(単位:百万円)



Point

① 売上高

■ FPD分野

- ・ 国内の携帯端末向け設備投資受注が上期伸長
- ・ 海外は計画あるも、景気や政治的背景で不透明

■ 半導体分野

- ・ 市場環境の悪化深刻も試作増加で比較的順調
- ・ 顧客増加と市場環境の改善で下期拡大予想

■ その他分野

- ・ 太陽電池分野は計画見込まず

② 利益面

- ・ 事業再生計画の固定費削減が通期寄与
- ・ 大規模設備投資の後始末は、ほぼ終結

中期事業計画を改定～「原点回帰」から「進化」へ

基本方針

「進化」

数値目標

「自己資本20%」

「強み」の創出と活用で新しいマルマエへ進化し目標達成

営業部

高付加価値品拡大
技術営業力の向上

関東事

製造技術力底上げ
デ-タ化と管理向上

製造部

技術者の能力向上
リピート生産力向上

品質管理部

リピート対応力向上
外注管理能力向上

管理部

専門技能向上
専門職内製化推進

「進化」 各事業戦略

戦略概要



- 「強み」を伸ばし、「強み」を活かす事業活動
- 小型機は半導体、大型機は原子力・鉄道等の新分野強化
- リピート製品への対応力強化で利益率向上

設備投資



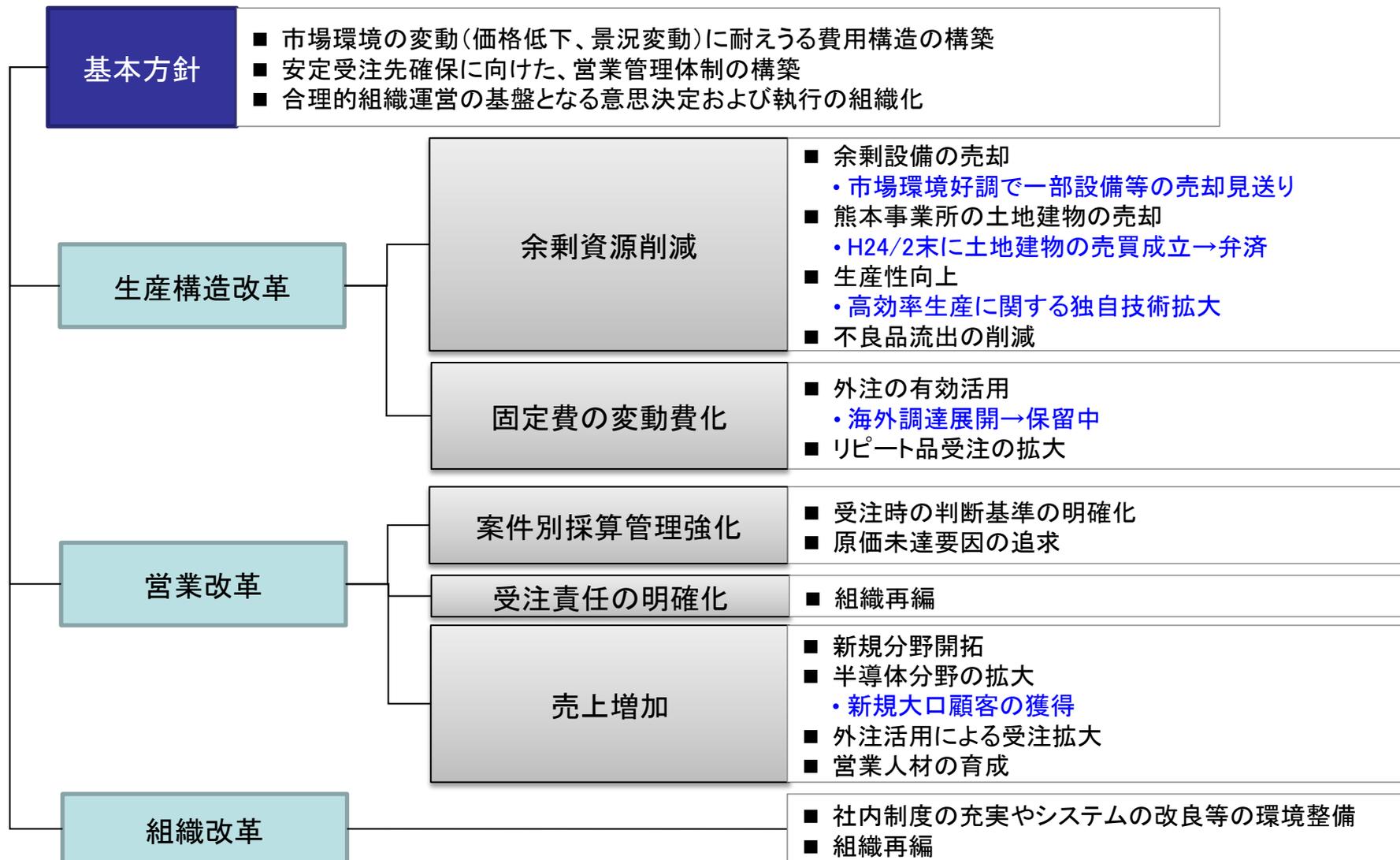
- 方針は「高精度」「リピート強化」「複雑化対応」
- 半導体分野の伸長に合わせ小型高精度設備増強・更新
- 抑制的かつ、慎重に投資判断

財務他戦略



- 事業再生計画に沿って借入金の弁済優先
- 事業規模横ばいも、業容拡大には国内外外注と短期人材活用
- 投資はフリーキャッシュフローから充当し新規調達無し

事業再生計画の進捗



本資料に掲載された情報、及び、口頭によって説明された実現していない内容に関しては、ある一定の仮定の元に予想された見通しであり、マルマエ経営陣の判断など不確定要素を含んでおります。

本資料は、株主・投資家などの皆様にマルマエの現況と経営方針をご理解いただくために作成されたものであり、利用者に対して、当社株式の購入・売却など投資判断を提供するものではありません。投資に関する責任は負いません。

数値などの情報には注意をはらっておりますが、掲載の内容については未監査の数値も多く、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報、またはその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料に関するお問合せ先
株式会社マルマエ 管理部総務課 IR担当

ir@marumae.com

TEL 0996-64-2900 FAX 0996-64-2863



Company Profile

企業情報

進化する技術で未来を拓く

会社名	株式会社マルマエ (Marumae Co., Ltd)		大株主 (普通株式)	前田 俊一	9,270株
設立	昭和63年10月			株式会社マルマエ(自己株)	1,094株
資本金	1億3300万円 (平成24年8月31日現在)			前田 美佐子	840株
役員	代表取締役社長 前田俊一			前田 良子	300株
	専務取締役 山元 弘	監査役 紫尾俊一		マルマエ共栄会	296株
	取締役 海崎功太	監査役 寺畑幸雄		五十嵐 光栄	279株
	取締役 藤山敏久	監査役 大道卓		齋藤 格	184株
従業員数	83名 うち 臨時雇用者等13名 (平成24年8月31日現在)			マルマエ従業員持株会	142株
所在地	本社	〒899-0401 鹿児島県出水市高尾野町大久保3816番41		平岩 靖	128株
	関東事業所	〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町2-17-15		野村證券株式会社	117株
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・精密機械・精密機器の設計・製造・加工・組立 ・精密機械部品の設計および製作 ・溶接部品の設計製造 ・運送業務 		敬称略 平成24年8月31日現在		
経営理念	<ol style="list-style-type: none"> 1.技術は究極を目指し 2.競争と協調を尊び 3.技術注力企業として社会に貢献する <p>経済を支える“モノづくり”の中で、モノづくりの源流である部品加工にこだわっていきます。 そして、さまざまな分野で総合メーカーを支えられる企業となるために先端技術と供給力を持つ部品加工のリーディングカンパニーを目指します。</p>				

進化する技術で未来を拓く

年月	沿革
昭和40年4月	鉄工所を故前田務(元社長、元相談役)が個人で創業
昭和63年10月	個人経営の鉄工所をマルマエ工業有限会社(現当社)に改組(出資金2,000千円)
平成4年	オートバイ部品製造目的のT'sM'sR&D(現当社事業)を前田俊一(現代表取締役社長)が個人で創業
平成9年9月	T'sM'sR&Dの事業をマルマエ工業有限会社が引継いでR&D事業部を設置
平成9年10月	R&D事業部にて発電所用タービンブレード受注開始、3次元CAD/CAMの導入
平成12年3月	同時5軸加工機導入
平成13年4月	株式会社マルマエに商号および組織変更(資本金10,000千円)
平成15年12月	鹿児島県出水郡高尾野町(現出水市)に本店移転、新本社工場竣工、大型5面加工機導入
平成16年4月	工場増床、高回転型門型加工機導入
平成16年12月	日本証券業協会によるグリーンシート銘柄指定(証券コード6264)
平成18年2月	鹿児島県出水市知識町に新工場(知識工場)取得
平成18年12月	東京証券取引所マザーズ市場に上場
平成19年2月	熊本県菊池郡大津町の熊本事業所が稼働開始
平成19年5月	経済産業省発表の2007年度版「元気なモノ作り中小企業300」に選定
平成20年4月	埼玉県朝霞市の関東事業所が稼働開始
平成20年5月	熊本事業所組立工場竣工
平成20年5月	本社第4工場竣工
平成20年9月	熊本事業所加工工場増設
平成23年4月	熊本事業所の閉鎖
平成23年7月	事業再生ADR手続の成立

※注 個人事業部分については、月次の確定が困難なため月日の記載を省略しております。